

まちづくりビジョン報告会 会議録

■ 日 時：平成27年3月25日（水）午後1時30分～午後3時55分

■ 場 所：みなかみ町カルチャーセンター ホール

■ 出席者

①まちづくりビジョン策定委員会（9／13名）

小林 洋、河合 生博、小野 章一、津久井 功、木村 孝弘、持谷 美奈子、
渡辺 一彦、金子 崇範、鬼頭 春二

②アドバイザー（1／1名）

平松 庚三

③事務局（3／3名）

まちづくり交流課長 宮崎 育雄、商工振興GL 小池 俊弘、主査 大川 志向

④その他（148名）

役場（43名）、議会（9名）、商工会、観光協会 外

※ 詳細は別紙「受付簿」のとおり

■ 配布資料

資料1 まちづくりビジョン報告会次第

資料2 まちづくりビジョン最終答申概要（報告会プレゼン資料）

資料3 ユネスコエコパークの魅力と取り組み事例

資料4 みなかみ町が目指すユネスコエコパーク

答申書 まちづくりビジョン最終答申書

■ アンケート

①回収数（63件）

②集計結果

※ 別紙「アンケート集計結果」のとおり

■ 次第

1 開会 13:30

2 あいさつ（まちづくりビジョン策定委員会 副委員長 鬼頭 春二） ～13:35
全国的に地方創生の取り組みが行われている。本町においても働く世代と子供の減少が懸念され、雇用と生活の場の確保が急務である。本委員会では昨年1月から議論を重ね、地場産業の振興を目的とした「まちづくりビジョン（案）」を作成した。本日の報告を聞いていただき、ビジョンの実現に向けて各々の立場でご尽力いただきたい。

3 報告（小僧 com 株式会社 代表取締役会長 平松 庚三） ～14:30

※ 別紙プレゼン資料のとおり

4 コメント（みなかみ町長 岸 良昌） ～14：40

ビジョンの必要性は感じており、まちづくりの長期計画のアイデアをいただきたいということで委員会を設置したが、この最終答申は委員会の構想でしかなくて、町の計画ではない。例えば、医者の方箋であって、できるかどうかは別問題である。何を優先的に実行していくかは検討する必要があるし、みんながやっぺいこうとならないとならない。答申で目標として掲げている3年後に社会減をゼロにするということは、1週間で体重を10キロ減らせと言っているようなもの。町では、地方創生法に基づき「みなかみ幸せ創生本部」を設置し、当面5か年についての戦略を策定するつもりであるが、戦略の策定以外の補助金は一切約束されていないし、町の責任で将来を見越してやれと言ふことだと捉えている。

また、「ユネスコエコパーク」は、ユネスコの職員が偉くなるためにでっち上げた制度であって、うまく乗せられているだけのこと。ただし、認定のために、町全域を3つのエリアに分けて、地域や自らの位置づけや役割を明確にしようとすることは評価できる。認定されれば客が増えるというものではなく、その過程で町民が共通認識を持つための手段としてならば使えると思うし、必要であると思う。そういう意味で、この後のユネスコエコパークに関する講演会の後にコメントをしようとは思わない。

月夜野町、水上町、新治村が10年前に消滅したように、地方自治体は自らが消滅を宣言しない限りは消滅することはないが、本町を発展させるためには何とかしなければならぬし、委員会からの答申をみんなで受け止めて、できる範囲でやっぺいきたいと思う。

この答申は町の計画ではないのでパブリックコメントを実施しようとは思わないし、答申として大切にしていふ。そのため、この後の質疑応答はビジョン委員会から回答いただきたい。

5 質疑応答 ～14：50

Q1

すばらしい提言を聞かせていただいたが、実際にどう実現・実行していくかをお聞かせいただきたい。

A1（みなかみ町長 岸 良昌）

この答申は委員会の構想（医者からの処方箋）であって、どう行動するかは行政の役割・判断である。限られた予算のなかで、この構想のどれをどう実現できるかは行政が考えていかなければならぬし、議員が地域の方々と相談しながら決めていただきたい。

A1（平松 庚三 氏）

町長からは、「これからのことはみなさんで考えればよい」との回答であったが、これからのことは町長が率先して考えるべき。もちろん、優先順位はつける必要があるし、進捗を管理する必要もある。

Q2

委員の人選に疑問がある。水上地域の核は湯原温泉であるが、その経営者が含まれるべきではなかったか？また、藤原地区が入っていないのはなぜか？

また、「町長と語る会」は厳冬期ではなく、出席しやすい時期、時間に開催してほしい。

A2（みなかみ町長 岸 良昌）

人選については、年齢を基準にしてバランスをとったつもりである。湯原温泉は18湯の中でも代表であると認識しており、観光会議等の中で検討を進めていきたい。

また、「町長を語る会」については厳冬期の夜にやっても仕方がないと思っていたが、議員がやれというので急いで開催した。できれば昼の時間帯に改めて開催したい。

<休憩 ～15:00>

6 講演（日本MAB計画委員会委員、日本自然保護協会保護研究部長 朱宮 文晴） ～15:50

テーマ：『ユネスコエコパークの魅力と取り組み事例』

※ 別紙プレゼン資料のとおり

7 報告（みなかみ町役場まちづくり交流課 エコパーク推進室長 宮崎 育雄） ～15:55

本町でもユネスコエコパークの登録に向けた取り組みを推進しているが、宮崎県綾町と決定的に違うことは、本町が首都圏約3,000万人の生命を支える利根川の源流に位置するということ。この源流という地域がどのような地域であるのかを、この機会に全国に発信していきたい。また、源流に暮らす我々がどういった生活をするのか、産業を振興させるのか、エコパークの理念や今回のビジョンを基にして検討していきたい。

行政だけで検討をすすめても理念に基づいたまちづくりの実現が困難であるので、初期の段階からみなさんにご参加いただき、考え方を共有する必要があるし、そのためにも情報を開示していきたい。現在、本町の自然に関してまとめているので、これを基にした説明も行う予定である。その上で申請をしていく。

ユネスコエコパークの理念を基にしたまちづくりを推進しなければ、登録は意味がない。引き続きみなさんのご協力をお願いします。

8 閉会 15:55